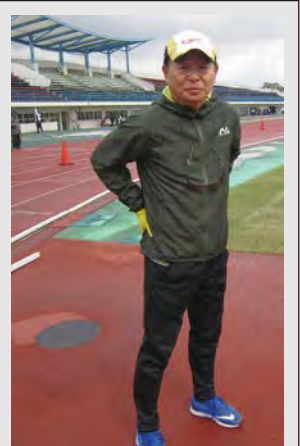


今の自分にできることは、 内野博己さん（小郡市在住）

うちのひろみ さい
内野博己さん（70歳）

おごおり し ざいじゆう もとしよくいん どう わ きやういく か ちやう げんざい じんけん
小郡市在住の元職員で同和教育課長（現在の人権・同和教育課長）
どう れきにん さいごろ め なんびやう はっしやう しりよく てい か みずか やまい む あ
等を歴任。50歳頃に目の難病を発症し、視力が低下。自らの病と向き合い
ながらも がくせい じだい はじ りくじやう つづ ねん
ながらも学生時代に始めた陸上を続け、2016年リオデジャネイロパラリン
ピック視覚障 害者マラソン女子銀メダリスト（2020東京パラリンピック
しゆつじやうゆうりよく せ かい きろく ほ じしや みちした み さとせんしゆ れんしゆう なが
出場有力）で世界記録保持者の道下美里選手の練習パートナーを長く
つと 務める。

2020東京オリンピック・パラリンピック聖火ランナーに選ばれる。



陸上を始めたきっかけは？



ちゆうがく とき とくせつ ぶ たい
中学3年生の時に、特設陸上部（大
かい き かんちゆう きぼうしや つの かつどう
会期間中だけ希望者を募って活動す
る）の一員として出場した大会で区
いちいん
間賞を獲ったのが最初です。その後、
かんしやう と さいしよ ご
高校1年生の時の体育祭のリレーで
こうこう たいいくさい
活躍したことで、陸上部へ入部するこ
かつやく にゆうぶ
とになりました。

なぜ陸上を続けようと思ったのですか？

びやうき そうきたいしよく たの もくひやう
病気により早期退職しましたが、「楽しみや目標がないと
いきでいけない」と思い、諦めずに続けようと思いました。
い あきら
その結果、色々な大会で優勝することができ、ホノルルマラ
けっか いろいろう ゆうしょう
ソンにも招待されました。
しようたい
げんざい か かし にちやす
現在は、2日走って1日休むというサイクルで走っています。
きより ちが なが
日によって距離は違いますが、長い時は1日10～15km走る
こともあります。

苦勞したことは？

わる ちが あしおと き ふあん かの にんしき
目が悪くなってから、道で人とすれ違う時に足音が聞こえて不安になったり、顔が認識できずあいさつ
びやうき し きゆう
ができなくなりました。目の病気のことを知らない人からは、「急にあいさつをしなくなった」と誤解を招くこ
お お こ い さ
とが多くなって落ち込み、人が多いところに行きたくないと避けるようになりました。

それでも、市職員時代に「同和」教育に会い、一歩前に踏み出すことや困難を乗り越えることの大切
まな けいけん む
さを学んだ経験から、前向きになることができました。

続けていてよかったことは？

おお
続けていてよかったことは、多くの
なかま で あ
仲間に出会えたことです。2018年10
がつ
月から、視覚障がい者と健常者がとも
けんじやうしや
に走る「おごおり天の川ふれあいマラ
あま がわ
ソン大会」というものを主宰していま
しゆさい
す。「視覚障がい者や高齢者が安心・
こうれいしや あんしん
安全に走れる場が少なく、また、一般
あんぜん ぼ すく いっぱん
の人が『視覚障がいがありながら走
ひと
る』ということを知る場も少ないため、
そうほう こうりゆう かんが けいき
双方が交流し、考える契機になれば」
とうぜんひとり
と思い、企画したのですが、当然一人
では開催することはできませんでし
た。その時支えてくれたのが、小郡や
くるめ
久留米のランニング仲間でした。仲間
の支えがあるから、色々なことにチャレ
ンジできているのだと思います。

何でもチャレンジしたい… 2020東京オリンピック・パラリンピック聖火ランナー)

聖火ランナーに選ばれた経緯と想い

中学3年生の時に1964年東京オリンピック・パラリンピックが開催され、その聖火リレーを見に行ることがあります。その場に今度は自分が立つことになり、身が引き締まる思いです。

聖火リレーには、「伴走者(サポーター)の支えがあってこそ成り立つ障害者マラソンの素晴らしさを表現したい」と思い、応募しました。昨年末に聖火ランナーの内定の連絡がきてすぐに、市内の病院で検査を受けました。何かあってはいけないと健康管理に気をつけています。新型コロナウイルスの影響で1年延期になりましたが、コロナに負けずに頑張ります。

道下さんとの出会い

道下さんとは、10年ほど前に福岡市内での練習で知り合いました。それから、小郡市内の点字ブロックのある公園で一緒に練習をするようになりました。



今でも、定期的にあすてらす横の宝満川堤防などで練習をしています。



今後の目標は何ですか？

自分にはハンディキャップがあるけれど、人には誰にでもいいところがあります。自分のいいところは、諦めないところ。諦めたら終わりだと思っています。できないことも多くなりましたが、自分にでもできることは何かしらあると思います。

今の自分にできることは、何でもチャレンジしたいと思います。

道下美里さん(43歳)

山口県下関市出身。実業団選手。

視覚障害者マラソンの女子選手で世界記録保持者。

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 銀メダル

2017年 第48回防府読売マラソン 2:56:14(世界記録)

2019年 World Para Athleticsマラソン世界選手権優勝 3連覇達成

2020年 別府大分毎日マラソン 2:54:22(世界新記録)2連覇達成

2020東京パラリンピック出場有力で聖火ランナーに選ばれる。



色々な立場の人に支えられて結果を残すことができ、今の自分につながっています。感謝の気持ちを持って、東京大会に向けて頑張ります。

